

2. Mağaracılık Teknikleri Çalıştayı (第2回 洞窟探検技術のワークショップ) 参加報告

山本 健太朗 (YAMAMOTO, Kentaro 立命館大学探検部所属 京都市在住)



会場からボスポラス海峡 (Boğaziçi) を望む

(1) はじめに

2019年11月16, 17日、トルコのイスタンブールにある Boğaziçi 大学にて、トルコ洞窟連合 (SFT : Speleological Federation of Turkey) 主催の 2. Mağaracılık Teknikleri Çalıştayı (第2回洞窟探検技術のワークショップ) が開かれました。本大会は、国内の大学及び一般のケイビングクラブが集まり、洞窟探検に関わる知識・技術を共有し、洞窟事故の発生及び深刻化を避け、より安全に洞窟探検をしていくことを目的としたワークショップでした。

本大会はプレゼンテーションと実演・指導の2部に分かれていました。プレゼンテーションの具体的な内容は、洞窟探検に伴うあらゆる事故の危険性やその対策・対処について、縦穴探検技術 SRT (Single Rope Technique) の概念と装備について、実際の事故報告、水中洞窟の探検や救助についてでした。その後、水中における救助、及び事故の際のサバイバルポイント設営の実演、SRT の指導がありました。

以下、大会のスケジュール (表) に沿って、大会の様子を報告します。

11月16日	プレゼンテーション	開会式
		事故発生時の対応について
		洞窟探検装備の種類や手入れについて
		リギングの概念と基本原理・注意点について
		過去の事故報告
11月17日	実演・指導	水中洞窟と救助について
		水中救助/SRT基本動作
11月17日	実演・指導	サバイバルポイントの設営
		SRT昇降訓練
		アンカー打設

表 大会スケジュール

(2) プレゼンテーションの内容

(i) 開会式

開会式では SFT の Bülent Genç 氏による、SFT や本大会についての説明がありました。SFT は適切な洞窟探検技術の共有はもちろん、洞窟やその水源地の調査・保護・

報告、世間への認知に向けた活動をしているそうです。国内の洞窟の位置や測量図といったデータベース、また事故報告等も管理しています。また洞窟事故発生時の連絡対応、洞窟に関する調査データや出版物、写真などの情報も受け付けています。

トルコの洞窟救助委員会は 2016 年からこれまで、2 年おきに会議・総会、また岩上及び洞内で計 4 回のワークショップをしています。国内のネットワークにとどまらず、ヨーロッパの洞窟救助組織に加入・連携して、国内外で洞窟救助訓練を行なっています。



写真 1 Bülent Genç 氏による開会式



写真 2 会場の様子